

Web 開催 第 37 回事例研究部会

原座長より皆さまへメッセージ

ハイブリッド形式による 2 回目の HCIF の開催にあたって

前回より HCIF をハイブリッド形式で開催していますが、いかがでしたでしょうか。皆様ハイブリッド形式に慣れておられるので、違和感なく開催できたと感じています。

今回の HCIF では、地域医療ネットワークの本家である K-MIX の K-MIX R への大幅な機能強化に代わり、レセプトコンピュータをネットワークで連携する「レセプト参照システム (K-MIX R BASIC)」に関してお話いただきます。これにより、電子カルテを導入していない医療機関に関しても、アレルギー情報、処方情報、検査情報を把握でき、K-MIX R と組み合わせることにより、ワクチン接種時などに絶大な威力を発揮しています。

K-MIX R の次の目標は、オンライン診療、在宅医療との直接の連携です。そのためには、在宅の患者の正確かつリアルタイムの情報が必要となりますが、その代表例としてニプロ社のハートラインのお話を伺います。地域医療ネットワークと在宅健康管理システムとの密な連携により、正確でしかも効率のよい理想的な医療が実現します。

後半では、現在、国内のみならず、世界から注目をあびている、モバイル CTG (iCTG) に関する講演です。日本産婦人科医会では、iCTG による遠隔での妊婦管理の有用性、安全性に関する臨床研究を行ってきましたが、その成果に関して「遠隔医療は日本の周産期医療体制を変える」といった魅力的な題での講演です。

もちろん iCTG は海外においても大変注目されています。この度、総務省の予算によりミッションで iCTG の有用性に関する調査事業を進めてきました。突然の軍政により一時事業が頓挫しかけたのですが、幸い関係者の皆様の多大なるご尽力で大変素晴らしい報告書が完成しましたので、実際の事業の展開にあたっての現地での苦労話も含めて報告していただきます。

日時：2022 年 3 月 4 日 (金) 13:30~16:00

主催：HCIF

共催：産業技術総合研究所、NPO 法人 e-HCIK

開催方法：Webinar (Zoom)

参加方法：件名を「HCIF 参加希望」としていただき、

氏名、会社名・所属、メールアドレスを下記までお送りください。

HCIF 事務局 築田

tsukuda@healthcare-innovation-forum.jp

プログラム：

- 「レセプト参照システム（K-MIX R BASIC）を用いた
新型コロナウイルス感染症対策の事例」
(医療法人社団そごうクリニック院長/
かがわ医療情報ネットワーク協議会運営委員長 濱本 勲氏)

- 「ニプロハートライン™のご紹介」
(ニプロ株式会社 事業戦略室 係長 中畑 伸之氏)

- 「遠隔医療は日本の周産期医療体制を変える
～周産期領域における実証研究 日本産婦人科医会～」
(公益社団法人日本産婦人科医会 常務理事/埼玉県産婦人科医会 会長/
平田クリニック 理事長・院長 平田 善康氏)

- 「総務省『ミャンマーにおける IoT 機器（モバイル胎児モニター）による母子保健サービス
向上・周産期死亡率低減に関する調査研究』に関して」
(特定非営利活動法人 BHN テレコム支援協議会 CTO/副理事長/PM 樽松 八平氏)
* 香川大学 インターナショナルオフィス
特命教授 徳田 雅明氏からご発言をいただきます。

* ミャンマーユタニ株式会社 Myanmar Yutani Co., Ltd.
Managing Director, 小丸 佳憲氏よりご発言をいただきます。

- 「軍政下における総務省『ミャンマーにおける周産期死亡率低減に関する調査研究事業』の
成果～世界で一番成績のよい日本の周産期医療を世界に展開～」
(香川大学瀬戸内圏研究センター 特任教授 原 量宏氏)

- 「経済産業省におけるヘルスケア産業政策について」
(四国経済産業局 新事業推進課 ヘルスケア産業振興係 新川 洋平氏)